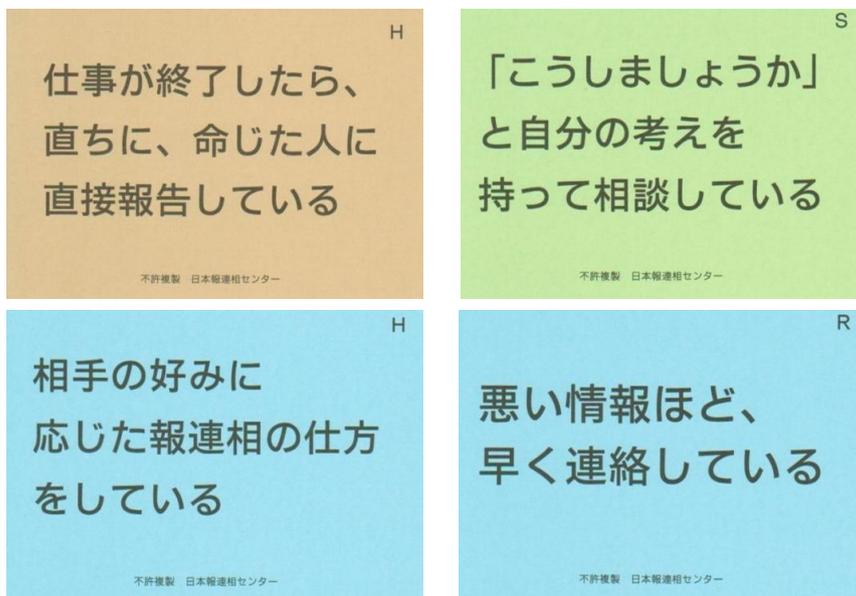


(参考資料) Lカードの活用事例 (ベクトルを合わせるための研修体系の構築/天野)

○Lカードとは

真・報連相の実習ゲーム用の教材です。

レベル表の59項目を1枚ずつのカードにしたもので、研修の理解を深めるゲームでよく活用されているツールです。



色は、レベル表のレベルをあらわしています (オレンジ: 1度 ~ 水色: 5度)。右上のアルファベットは、Hが報告、Rが連絡、Sが相談の意味です。

※レベル表は「仕事の進め方」の一覧表

Lカードで1つ1つの「仕事の進め方」を吟味することができます。

○Lカードの使い方の1例

- (1) 参加者を4～6個程度のグループに分け、Lカードを各グループに1組配る
- (2) テーブルの上に模造紙を広げ、以下のように枠を設けます。
各グループで話し合いながら、会社全体が「できている」「できていない」について、1枚ずつのカードを分類していきます。

できている	ある程度できている	あまりできていない	できていない

※だいたい4分割できればいいので、枚数を厳密に揃える必要はありません。
思い出される「事件」などを話しながら、分類していきましょう。

- (3) グループごとの分類が終わったら、壁に新しい模造紙を貼り、以下のような枠を設けます。
- (4) 各グループで、会社で「できているベスト10」と「できていないワースト10」を選び、模造紙の上に貼っていきます。
- 全グループが貼り終わったら、カードを選んだ理由を発表してもらいます。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
できている ベスト10				
できていない ワースト10				

※なるべく具体的なエピソードをそえて、話してもらいましょう。

- (5) 全グループが「ワースト10」に選んだカードについては、自社の課題と考えられます。みんなで共有した課題を克服するための研修計画を立てていきましょう。

【留意事項】

- ・Lカード59枚のすべてを使って行うこともできますが、1度～3度に絞って行っても構いません。(4度・5度は、職位によっては難しい内容もあります)
- ・選び出す「ベスト」「ワースト」は10個でなくても構いません。より少ない枚数を選び出そうとすれば、グループでの意見交換も活発になるので、面白い事例が飛び出してくることもあります。
- ・グループ分けは、職位、部署などで分けてもいいですし、ランダムに分けても問題ありません。ただし、参加者全員が発言しやすいように配慮してください。

Lカードは、一般社団法人「日本報連相センター」のホームページから購入することができます。(<http://www.nhc.jp.net/index.html>)

Lカードを用いた研修も実施しておりますので、お気軽にお問い合わせください。